

2010年度
社会・環境報告書



生協ひろしま

目次	
「社会・環境報告書」の発行にあたって	01
生協ひろしまの事業概況	02
第1部 社会貢献活動	
食の安全・安心	04
地産地消	06
産地視察・交流	07
平和	08
環境	10
子育て、消費者保護等	13
第2部 統合マネジメント (IMS)	
方針	14
IMS 目標の達成状況	15
事業活動に伴うエネルギー使用	16
リサイクル	17
環境会計	18
組合員の声を業務改善に	19
事故削減の取り組み	20
IMS 有効確認	21

生協ひろしまの概況

■生協名	生活協同組合ひろしま
■本部事務所	広島県廿日市市大野原1-2-10
■活動エリア	広島県全域
■設立	1971年5月
■理事長	林 辰也
■組合員数	37.3万世帯（前年比102.6%）
■出資金	126.7億円（前年比103.3%）
■事務所	支所17、店舗11（2010年7月オープンのコープ西風新都を含む）、商品センター1、訪問介護事業所8、居宅介護事業所7、デイサービス事業所4、小規模多機能事務所1、子会社【コープサービス(株)、コープハウジング(株)、(株)ハートコープひろしま】
■職員数	正規663人 定時職員1,709人 福祉専門職135人 ヘルパー登録487人
■供給高	425.8億円（前年比97.1%）
	共同購入他 333.9億円（前年比97.7%）
	店 舗 91.9億円（前年比94.9%）

（2010年3月現在）

「社会・環境報告書」の発行にあたって

専務理事 横山 弘成



2009年度は、2008年1月に発生したCO・OP手作り餃子重大中毒事故を教訓に再発防止と信頼回復を最優先課題として、商品検査や工場点検等の「食の安全確保の取り組み」を継続して行ってきました。日本の食糧問題や農業問題についても生協として見解を持ち、より安全で安心して利用いただける農産物の提供と、県内農業の活性化や自給率向上への取り組みを強化すること、また組合員に自給率問題や農業問題を身近に感じていただき、より県内農業の現状を理解いただくことを目的に2010年7月、北広島町に農業生産法人(株)ハートランドひろしまを設立します。そこでは、地域の知的障がい者の方の雇用も積極的に行う予定です。また収穫された農産物は、当面は店舗での供給を中心にし、可能であれば無店舗でも供給していく予定です。

地球温暖化対策では、改正省エネ法により事業者としてより一層のCO₂削減が求められています。2009年9月にオープンしたコープ東広島では、生協ひろしまでは初の太陽光発電施設の設置やLED照明の導入等を行い、無店舗事業の一部配送車両には店舗から排出される食用油を利用したバイオディーゼル燃料を使用する等、CO₂の排出削減の取り組みを行ってきました。今後も省エネ機器の導入等を行い、CO₂排出量削減に取り組んでいきます。

今年度は2010年度～2012年度までを実施期間とする新「中期計画」を策定し、事業や組織の改革に取り組むことを確認してきました。今回の中期計画は、多くの職員の参加により検討会議を行い、「安心して利用していただける商品配送でありたい」「楽しくお買物をしていただきたい」等、職員のさまざまな想いから目指すべき組織をイメージした中期計画としました。また、法律の遵守と社会的な倫理の尊重を行い、「内部統制システムの構築」「環境対応事業の構築」「業務の日常的な改善改革活動」「地域社会への貢献事業推進」等についての課題を総合的に取り組むことにより、組合員に安全で安心して利用いただける商品やサービスを提供し続けることで、社会的責任経営をより一層強めてまいります。

この新中期計画で目指すべき姿の実現のために、今取り組む課題を明確にしなが、2010年度の取り組みを行ってまいりますので、引き続きみなさまからのご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

2010年6月

生協ひろしまの事業概況

総合的な「暮らし提案」

生協ひろしまが関連会社を含めて展開している「商品供給事業」「共済事業」「福祉事業」「サービス事業」「ハウジング事業」等を地域に「くらし」消費者のくらし全般への貢献という視点から、各事業を組み合わせることによって総合的なくらし提案をし、くらしの安全・安心を提供していきます。

無店舗事業

毎週決まった曜日の決まった時間にご注文をいただいた商品をお届け。商品の配送形態は、“班”を単位に商品をお届けする「共同購入」、個人宅に商品をお届けする「個人別配送」、配送センターや店舗等で商品を受け取る「地域受取」があります。

夕食宅配

1人暮らしで食事づくりが難しいお年寄り等のお役に立てるよう、夕食宅配サービスを2009年8月より開始。「おもしろいコープ弁当便」として、日替わりで栄養士が健康に配慮した献立を提案しております。お弁当は宅配スタッフにより、手渡しを基本としており、利用者の健康状態の確認等を行うこともできます。2010年3月末現在で1,316名の利用者となっています。



装い事業

宝石や呉服のように価格や商品情報についての不安や不満の多い商品について、安心してご利用いただける装い事業。生協ひろしまの専門の職員がご自宅に訪問して現物を見ていただいたり、展示会も行っています。



店舗事業

広島県内に11の店舗があり、食品を中心とした生活必需品の商品供給をしています。売り場における品質管理体制や組合員対応等のサービスレベル向上を強めています。

2010年7月には、生協ひろしま11番目のお店となるコープ西風新都が安佐南区伴南にオープンしました。



共済事業

CO・OP共済の目的は、「加入者を増やすこと」ではなく、「困った時に使っていただいて、お役に立つこと」ですので給付もれの声かけ活動も行っています。事業開始から25年の間に、組合員さんのたすけあいの輪が大きく広がっています。



福祉事業

自宅でのくらしをサポートするための、ケアプランの作成からヘルパーの派遣、福祉用具の貸し出し等を組み合わせ、またデイサービスや小規模多機能施設を設け、より充実した福祉サービスの提供をしています。

2009年12月には生協ひろしまで4ヶ所目のデイサービスセンター上畑を開設しました。



コープハウジング

現在のお住まいの問題点やご希望をしっかりと確認して、プランの提案から工事の引渡しまで、一貫した責任施行体制をとっています。また各家庭の状況に応じた省エネリフォームを積極的に提案し「人と環境にやさしいリフォーム」をご提案しています。

コープサービス

組合員の幅広い生活ニーズに応えるため、エアコンクリーニングや引越し等のサービス斡旋事業、映画やコンサート等のチケット販売事業、がん保険や自動車保険等の保険代理店事業、旅行代理店事業、葬祭提携事業等のサービスを行っています。

2010年～2012年度の中期計画

3年後(2012年度)に到達したい姿

私たち生協ひろしまは、組合員が「安心して利用できる」「楽しく買い物ができる」「利用して(買い物に行くと)良かったと実感できる」「気軽に相談できる」と感じていただける事業やサービスを提供することで、利用者一人一人の日々の暮らしにお役立ちします。

そのために、組合員の声や想いを事業に反映させ、組合員と一緒に成果やプロセスが実感できる「生協らしい事業」を再構築します。

これらの取り組みに対して、すべての職員が各人の役割と責任を明確にして全力で取り組むことで、生協ひろしまの「存在価値」と「展望」を実感できる3ヵ年として中期計画を実践します。



第3回コンプライアンス委員会

法令順守や社会貢献活動の取り組み状況を各分野の専門家や学識者による第三者によって客観的な評価及び提案を受け、CSR経営を促進する目的で2008年からコンプライアンス委員会を設置しています。



2009年12月9日 開催

食の安全・安心の取り組み

2009年度、商品検査(2,376品目)や工場点検(63工場)を行い、また原材料から製品となって組合員にお届けするまで、すべての過程で安全が確保できる取り組みを「食の安全確保の取り組み」として継続して行いました。

また、海外産の農薬・水産商品、総菜用の加工商品や国内産の産直野菜等について、メタミドホス、ジグロスホス等、約220の農薬の検査を実施し、2009年度の検査結果はすべて「検出せず」または「基準値以下」でした。

今後も、継続して検査を実施していきます。



▼2009年度 残留農薬検査等の自主検査結果

部 門	検出せず	基準値内
農 産	51	39
惣 菜	7	—
水 産	6	—
食 品	2	—
計	105検体	—

(2009年4月1日～2010年3月31日)
※基準値内とは、国で決められた基準値の範囲内です。

食の安全 (2000年度からの取り組み年表)

- 2000年度 ● 豊かな食と農と地域・ひろしまをつくる協同シンポジウム開催
- 2001年度 ● コーブ商品の試食会を県内21ヶ所で開催し、16,000人の参加
● 「狂牛病のない暮らしを! 10.29生産者・消費者協同集会」を開催
- 2002年度 ● トレーサビリティの行き届いた「北海道産つるい牛」の供給開始
● 「地産地消推進の会」を生協ひろしま、生産者、JA広島中央会、JA全農ひろしまが一緒になって設置
- 2003年度 ● コパル等のチラシ表示が誤解をまねいたり、あいまいな表現はないかを外部団体による点検を実施
- 2004年度 ● 「牛の固体識別のため情報管理及び伝達に関する特別措置法」の実施に対応し、ロット番号または固体識別番号を商品に表示
● 生協産直たまごの「卵のパスポートシステム」が「安心! 広島ブランド」の認証取得(たまごでは県内初)
- 2005年度 ● 農産センターからお届けまでを農産品専用のZパックに変更し、配送中の品温管理の徹底
- 2006年度 ● たまごの鮮度が低下しないように、配送形態を「常温」から「冷蔵」に変更
- 2007年度 ● 県内の産地と実験的に野菜の全量引取り契約を結ぶ
● 生協産直たまご1つひとつに、パック日と賞味期限日を印字開始
- 2008年度 ● コパル掲載の冷凍加工品に含まれる原料原産地情報を上位3品目について紙面に掲載
● 中国で最終加工された商品について、品揃え上必要なものを除き、取り扱いを見合わせ
- 2009年度 ● 商品検査や工場点検等の「食の安全確保の取り組み」を継続

組合員への食品に関する情報提供

組合員への食の安全の情報提供誌「たねまき」を引き続き発行し、情報提供を行いました。2008年6月から隔月で発行し、毎回テーマをもって組合員へ情報提供を行いました。

発行日	テ ー マ
vol. 6 2009年 4月発行	消費者が「食の安全」の主役です。～私たち消費者の責務を知り、実践していく～
vol. 7 6月発行	「安全・安心」が当たり前の社会へ～共に学び、共に考え、前進していきましょう～
vol. 8 8月発行	心の空腹感を満たす「弁当の日」～自立心と感謝の気持ち、家族の絆を育てたい～
vol. 9 10月発行	食べるとは、命をいただくこと～肉はどこから来るのか…養豚場から食卓まで～
vol.10 12月発行	虫食いあとは、安心のしるし～生協ひろしま農業生産法人設立に向けて、農村に学ぶ～
vol.11 2010年 2月発行	「ごちそうさま」に学ぶこと。～栄養士の卵たちが、幼稚園児のために作る「給食実習」～
vol.12 4月発行	「表示」が開く、安心の扉～信頼できる食品を選択する目を養おう～



第2回たべる、たいせつフェスティバル2010

～いただきます! 笑顔いっぱい 家族の和～

食べることの大切さをみんなで実感する「食の祭典」が、3月21日、広島市南区の広島県立広島産業会館で開催され、約1万名の方に来場いただきました。当日は、組合員さんやメーカーさん、生産者さん等のご協力により、65ブースで試食販売や体験学習などが行なわれ、生協商品のこだわりや、食育を実感し「たべるたいせつ」をみんなで考えるフェスティバルとなりました。



広島県農業生産者支援制度

昨年度に続き、広島県の農業が自立的かつ持続的に発展し、組合員の要求である「安全・安心」「おいしさ」「品質」がさらに高まるよう、県内で先進的な取り組みやこだわりをもって生産されている農業の生産者(団体)の支援制度を設けています。たべる、たいせつフェスティバル2010の会場で、以下の2団体へ表彰を行いました。



【高野町酪農組合様】

「産直3.5牛乳高野・備北の恵み」の生産の実績や土から草、そして牛への循環型農業を実践されています。

【東洋林産化成株式会社様】

パーク堆肥、土壌改良剤の販売を通じてよりよい土作りを追求されており、農場で栽培した米、ネギ、サトイモ等6品目が広島特別栽培農産物に認証されています。また、広島県立大学との共同研究など農業に対して先進的に取り組まれています。

地産地消の取り組み

地産地消推進として、2009年度は「コパルで地産地消商品の供給促進」「店舗で2ヶ月に1度、地産地消商品を中心にした企画をチラシに掲載し試食販売等を実施」「店舗の農産で、吉和有機グループ等、新たな産地と契約し、県内産野菜の取り扱い品目を増やす」「店舗の水産で、鮮度の良い地魚の取扱量を増やす」等の取り組みを行いました。また「地産地消推進の会」の見直しをおこない、6つの推進の会を「地産地消推進委員会」として一つにまとめ、年間を通じて学習し、地産地消商品の普及活動を行いました。

産地開発

全量引取りによる農産物の提供や、組合員とともに地産地消推進を積極的におこない産地訪問や生産者との交流をより幅広く行いました。2009年度は、県内の産地と「里芋」「イエローミニトマト」「人参」「パプリカ」「マロン南瓜」の契約栽培に取り組み、店舗で販売をし、組合員に好評でした。



朝採りとうもろこしを店舗で販売

7月18日、店舗の職員が朝4時から広島市安佐南区で生産者と一緒にととうもろこしを収穫。そのまま店舗へ持っていく、「朝採りとうもろこし」の販売をしました。

朝採りの味は格別ということで組合員さんにも好評、生産者にとっても、一番おいしい収穫期に全量販売できる企画となっています。



地産地消フェアでおいしさ実感

10月31日、コープ東広島で、地産地消フェアが開催され、「地産地消推進委員会」の組合員さんたちが、来店者へ試食のおすすめをしました。当日ご紹介したのは産直味わい豚や牛乳、米など全部で5品。商品の食べくらべや説明をしながら、生協ひろしまが推進している「地産地消」について広くお知らせしました。



地産地消でCO₂削減キャンペーン

輸送にかかるエネルギーが少なくてすむ地元「広島県産」の購入は、CO₂の間接的排出削減にもつながる行動です。そこで地産地消でCO₂削減キャンペーンとして、3月に無店舗で4企画、店舗で1ヶ月間の販売訴求を行いました。結果は、総利用点数が487,820点となり、CO₂排出削減は33トンとなりました。

CO₂削減!
地産地消

産地視察・交流の取り組み

生協ひろしまが推進する「産直」は、産地と直接結びつき、ともに質の高い商品を作り出すことです。「生産地と生産者が明確であること」「生産方法が明らかであること」「生産者と組合員が交流できること」「事業として成り立ち、継続できること」「生産者と消費者が対等・平等であること」の産直5原則に沿って、取り組みを進めています。

組合員の産地視察一覧

視 察 先	代 表 商 品 名
折田農園・大隅地区養まん漁業協同組合	COOPうなぎ蒲焼、コープフェイスうまみ緑茶
J A 広 島 北 部	ミニトマト
(株)海工房・ヨコオフーズ	みつせ鶏/COOP博多仕込み辛子明太子
(株)ノースイ・(株)シーサット	COOP大粒かきフライ さわらのみそ漬/天然プリ切身
J A い し の ま き	生協米ひとめぼれ
(株)ダイヤモンド・(株)海産物のきむらや	COOPシルバーしょうゆ漬け/ COOP伊平屋島産味付太もずく
(株)ホクチクファーム	産直つるい牛
J A 庄 原	里芋
J A 広 島 ゆ た か	大長みかん
J A 庄 原	千浜人参



職員の産地視察一覧

視 察 先	代 表 商 品 名
J A 広 島 北 部 ク リ ー ン カ ル チ ャ ー	水耕栽培県内産青ねぎ
(株)ノースイ・(株)シーサット	COOP大粒かきフライ さわらのみそ漬/天然プリ切身
高 野 町 酪 農 組 合	コープフェイス産直3.5牛乳 高野・備北のめぐみ
恩 納 村 漁 業 協 同 組 合	COOP恩納村産味付太もずく
(株)海工房	COOP博多仕込み辛子明太子
J A 広 島 ゆ た か	大長みかん
濱 野 農 園 グ ル ー プ	瀬戸内みかん
大 自 然 フ ァ ー ム	本田さんのフルーツ人参
岩 村 園 芸	岩村さんのトマト



職員こめづくりの会

2007年からはじまった生協ひろしま職員の有志で作る「職員こめづくりの会」は、島根県邑南町の交流田で、草刈りや稲刈り等を体験し、米作りを通して食について考える機会を広げています。2009年は約300kgのお米ができました。



平和の取り組み

ヒロシマの悲劇をくりかえさず、豊かなくらしづくりに貢献するために活動しています。

ピースナイター

9月15日、カーブを応援して、平和のメッセージを伝えるピースナイターをマツダスタジアムで行いました。当日は、内野自由席の原爆ドームと同じ高さ（25m）の位置に座った方が同じ色のTシャツを着たりポスターを掲げてラインを作って平和への思いを全国に発信しました。



平和行進

ヒロシマの願いをかがげ、平和の大切さをアピールしながら、県内各地を行進しました。2009年度は5コースの平和行進を行い、595名の参加がありました



ピースアクションinヒロシマ

全国の生協組合員さんが広島につどい、「ヒロシマの願い」を交流するピースアクションinヒロシマが開催され、その中のメイン企画のひとつ、ヒロシマ虹のひろばが、8月5日(水)、広島市中区の広島県立総合体育館グリーンアリーナで開催されました。ひろばには、被爆の証言や、被爆体験の証言、ワークショップなどで、ヒロシマについて学習や交流を深めた組合員さんなど、52生協より約1,300名が参加、「市民レベルの取り組みが大切であること」を確認しあいました。



碑めぐりガイド

組合員のボランティアグループで、広島市内各所に点在する、被爆の実相を伝える「碑」をめぐり、そのいわれと「碑」に込められた「思い」をご案内しています。訪れた方と一緒に、「平和の尊さ」と「ヒロシマ」を実感し、「ヒロシマを語り継ぎたい」そんな思いで活動をしています。2009年度は、133団体2,388名（大人194名・子ども2,144名）に碑めぐりガイドを行いました。



核廃絶を人文字でアピール

広島市で開催された「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会(ICNND)」に合わせ、広島市主催の市民集会在10月17日、旧広島市民球場で開催されました。会には、約950名が参加、生協ひろしまからも63名が、「2020」という人文字と、折りづるで画いた「NONUKES」（核兵器廃絶）という文字でヒロシマのメッセージ伝えました。



2020ビジョン署名活動

広島市内で、国連に署名を送ろうと、「2020ビジョン市民&学生ネットワーク」による署名活動が行われ、高校生とともに生協ひろしまの組合員等がヒロシマの思いを集めました。2009年6月から毎月20日に署名活動を行い、集まった署名2,394筆を3月24日に広島市に奇託しました。



2020ビジョン学習会

2020年までに核兵器廃絶を目指す取り組み「2020ビジョン」についての学習会が、(財)広島平和文化センターのステイブン・リーパー理事長を講師に県内4ヶ所で行われました。

被爆者支援団体への募金贈呈

組合員さんの皆様にご協力をいただいた平和募金のうち100万円が8つの被爆者支援団体へ贈呈されました。贈呈先はニューヨークで開かれるNPT再検討会議に代表を派遣する団体や、高校生を中心に平和活動に取り組む団体を理事会で選定しました。

NPT再検討会議代表団

2010年5月3日から28日までアメリカ・ニューヨーク国連本部にてNPT再検討会議が開催されるにあたり、生協ひろしまから、5名の代表を派遣しました。生協代表団は、前回のNPT再検討会議の3倍以上となる105名（47生協・県連）の参加規模になり、生協ひろしま代表団は、生協代表団の一員として国連での原爆展、学校での被爆証言活動、デモ行進、各国政府代表部への要請行動などに参加しました。



環境の取り組み

地球温暖化対策として、2002年度よりCO₂排出量削減の取り組みを進めてきましたが、2009年度9月にオープンしたコープ東広島には太陽光発電の設置やLED照明を導入しました。待ったなしの地球温暖化問題に社会的責任として取り組んでいます。

環境配慮店舗のコープ東広島

2009年9月にオープンしたコープ東広島では、太陽光発電設備やLED照明を導入した環境にやさしい店舗となっています。太陽光発電は、一般社団法人新エネルギー導入促進協議会の1/3補助の交付決定を受けて、10kWの太陽光発電を設置。2009年度は3,148kWhの発電量がありました。

LED照明は、生鮮売場のスポット照明（精肉を除く）、ベーカリー、化粧品、アイスクリームショーケース（リーチイン）、女性用トイレのダウンライトにLED照明を採用しました。また、組合員の根強い要望に応じて、コーヒー、紅茶を中心にフェアトレードコーナーを新設しました。



BDF車両導入

庚午支所でバイオディーゼル燃料（BDF）を使用した車両4台を導入しました。この燃料は生協の7店舗の廃食油を回収し、有限会社コラボに精製を依頼しています。バイオディーゼル燃料（BDF）車両の導入により、2009年度は4,599リットルの軽油の使用量が削減できました。



環境の取り組み年表(2000年度～)

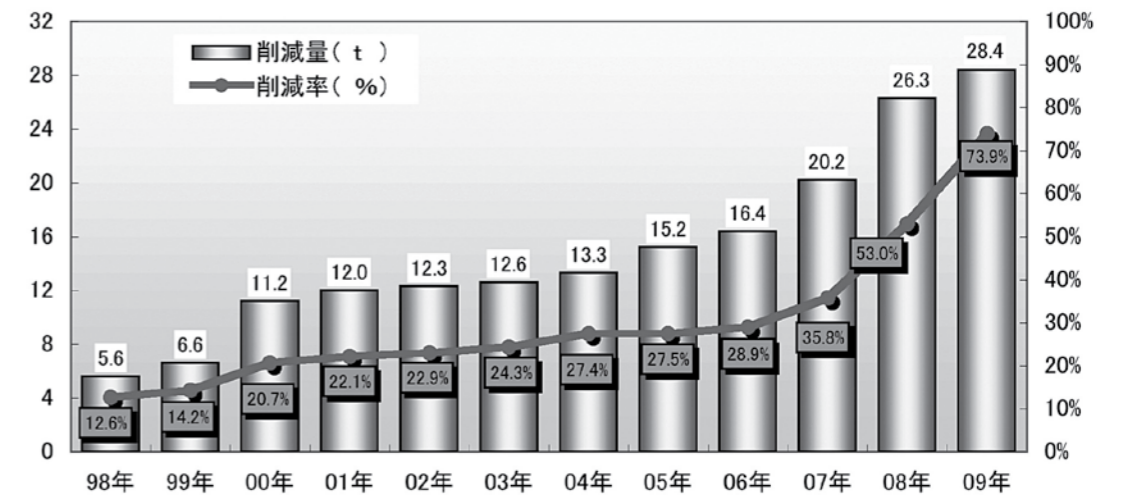
- 2000年度 ● 廃プラ(PET)素材の制服導入
- 2001年度 ● ISO14001(環境マネジメントシステム)の認証取得
- 2002年度 ● 店舗の生ゴミの堆肥化開始
- 2003年度 ● 広島商品センターが「広島市ごみ減量優良事業者表彰」受賞
- 2004年度 ● コープ安東が「広島市ごみ減量優良事業者表彰」受賞
- 2005年度 ● 広島商品センターにプラスチック圧縮機導入(商品を入れるビニールのリサイクル開始)
- 2006年度 ● 環境省委託事業「バイオマスエネルギー導入の東広島モデル事業」に参加
● 環境省委託事業「平成18年度地球協同実施排出抑制対策推進モデル事業」受託
- 2007年度 ● 「バイオマスエネルギー導入の東広島モデル事業」で組合員から廃食油の回収開始
- 2008年度 ● 「フードバンク広島」へ店舗の余剰商品の提供開始
● コープ船越が「広島市ごみ減量優良事業者表彰」、コープハモンズが「ふくやま環境賞」受賞
- 2009年度 ● コープ東広島に10kWの太陽光発電設置
● 庚午支所にBDF車両を4台配置
● レジ袋無料配布中止の協定を広島県等と結ぶ

買い物袋持参率の推移

生協ひろしまでは、1995年度から買い物袋持参者へのスタンプ制度を導入し、買い物袋の持参の呼びかけを行って参りました。2008年度には2店舗のレジ袋の無料配布中止を行い、2009年度には広島県等と「広島県におけるマイバック等の持参とレジ袋削減推進に関する協定書」を結び、10月1日から福山市駅家町にあるコープハモンズ以外の全店舗でレジ袋の無料配布を中止しました。

レジ袋を無料配布中止した店舗では、10月以降、90%前後の持参率となっています。

尚、コープハモンズでは、福山市の「エコでえ〜ことキャンペーン」に参加し、引き続き買い物袋の持参の呼びかけを行っています。



木質ペレットストーブの導入

2008年度のレジ袋無料配布中止に伴う販売収益金(204,155円)は、木質ペレットストーブによるCO₂削減の実証実験に活用することとし、三次支所に11月13日に設置を行いました。木質ペレットストーブの導入により、449リットルの灯油使用量を削減できました。



東広島モデル事業

2006年4月～2009年2月に環境省の委託事業「東広島モデル事業」に参加し、生協ひろしまは組合員から廃食油を回収し、広島大学農場内の実験施設へ持込を行っています。この事業は、廃食油や生ゴミ等の捨てられるものをエネルギーにして使用するシステムを構築する実験で、参加団体は広島大学、豊国工業、中国電力、東広島市、西条農業高校となっています。環境省からの委託事業としては2008年度に終了していますが、2009年度も引き続き、参加団体と協力をして実験を行い2010年度も継続していきます。2009年度は組合員から961リットルの廃食油の回収を行いました。

ポリエステル衣料回収

ポリエステル衣料の回収のリサイクルは「備後エコタウン構想」の一環として、エコログ・リサイクリング・ジャパンにより、コープハモンズ店頭で隔月の第3土曜日に組合員より回収を行っています。2009年度は541枚のリサイクル衣料を回収しました。

「脱温暖化シンポジウム」の開催

脱温暖化センターひろしま（財団法人広島県環境保健協会）と共催で、脱温暖化シンポジウムを開催し、174名の参加がありました。

記念講演として江守 正多氏（独立行政法人国立環境研究所 地球環境研究センター 温暖化リスク評価研究室室長）からスーパーコンピュータによる温暖化予測などについてのお話を聞いた後、後半のパネルディスカッションでは、「低炭素社会を実現するために何をすべきか」をテーマに話し合いました。参加者からは、「地球温暖化の現状や予測がよくわかった」「科学的視点でデータに基づき話しが聞け役立った」等の声がありました。



2009年6月27日 脱温暖化シンポジウム開催

広島市とのエコパートナー調印

地球温暖化問題やエネルギー問題、ごみ問題を解決し、より良い環境を子どもたちに引き継ぐことができるよう、広島市と事業者が緊密なパートナーシップのもと、連携・協力して取組を進めるため、「ひろしまエコパートナー協定」を締結しました。協定締結事業者は、生協ひろしまの他、11事業者で、事業者は、自主的に取り組む内容を協定書に記載し、毎年度取組状況を市に報告や広島市の環境イベント等について、必要な協力を実施等が求められています。



2009年10月19日 調印

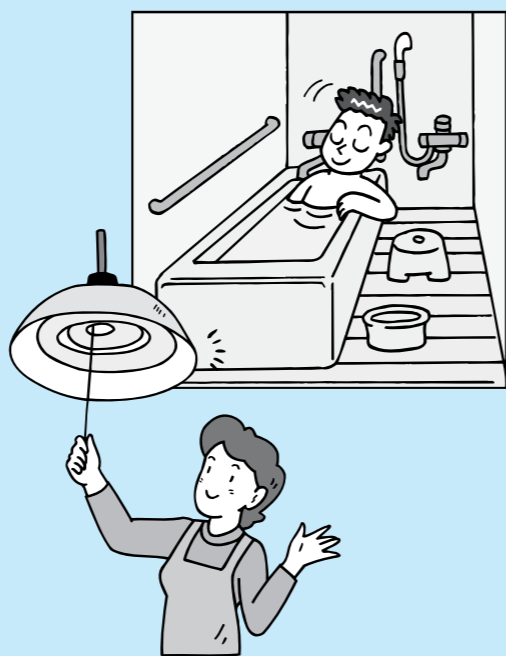
省エネトライアル

家庭の省エネ行動を広げ、家庭でのCO₂排出削減を促進することを目的に2009年度は「暑さ対策省エネトライアル」と「お風呂・暖房省エネトライアル」を実施しました。

暑さ対策には358世帯の組合員が参加し全体で12,014kWhの電気使用量を削減しました。また、お風呂・暖房対策には215世帯の組合員が参加し全体で67kg-CO₂のCO₂排出量を削減しました。

省エネ診断

省エネ診断を行うためのパソコン操作習得のため、省エネ診断員養成講座を2回開催し、14人が受講しました。また、環境イベントや店舗の周年祭等で11回の省エネ診断を行い304人の方が診断を受けられました。



子育て、消費者保護 等

ちびっこひろば

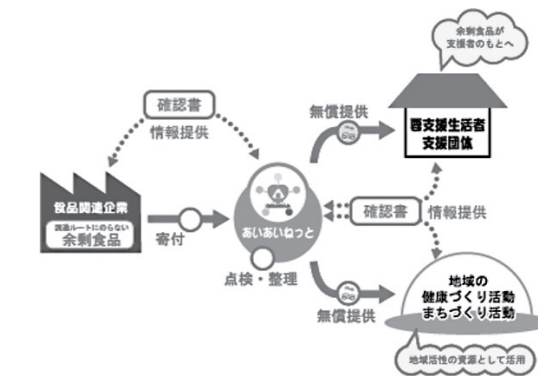
店舗の集会室を使用し、未就園児とその保護者を対象に、気軽にコミュニケーションが取れる場として作られた「ちびっこひろば」は、現在5店舗（コープ五日市北、コープ矢野東、コープ高陽、コープ安東、コープ東広島）で開催しています。2009年度は5店舗合計で1,169人の参加がありました。



フードバンク

日本の食の現場では、まだ食べ物としての役割を担えるにもかかわらず、生産過剰、包装時の損傷や賞味期限切れが迫るなどの理由で、食品が大量に廃棄されています。

そこで生協ひろしまは、市場に出すことはできなくても、食品として十分に使用できる食べ物を捨てずに活かすフードバンク事業に積極的に協力し「NPO法人あいあいねっと」に生協ひろしまの商品管理基準を超えた賞味期限内の商品の提供を2009年2月より行っています。2009年度は提供を行っている3店舗（コープ安東、コープ高陽、コープ五日市北）で1,683kgの商品提供を行いました。



コープぼうさい塾

7月17日、ちばコープ理事長スタッフ兼災害担当の水島重光様を講師に招いて「コープぼうさい塾」を開催しました。

地図を使って災害模擬体験や困った時にどうするかをみんなで話し合い、減災マップを創りました。



消費者保護

消費者力アップ講座

「賢い消費者」になるために、消費にかかわる知識を学習する講座が2009年度、4回開かれました。受講者が受けた（財）消費者協会が主催する「消費者力検定」の結果発表も行われ、21名が消費者2～3級の認定を受けました。



NPO消費者ネット

NPO消費者ネット広島は、全国で5番目に設立された適格消費者団体です。消費者被害の未然防止・拡大防止を図るために適格消費者団体に差止請求権が付与されましたが、適格消費者団体にとって訴訟費用の負担は大きく、団体訴訟制度の実効性を高めるためには財政支援が重要となっています。

生協ひろしまでは、NPO消費者ネットひろしまへ人的支援とともに、年1回の支援募金を行っています。



2010年度の「統合マネジメント方針」

生協ひろしまは、生活必需品を中心とした商品供給事業及び共済、福祉、文化、リフォームのサービス事業並びに組合員活動を通じて豊かなくらしづくりに貢献し、広島の地に根ざした活動を推進していきます。

活動、商品・サービスの全ての業務で発生するリスクを洗い出し、その影響評価を行ない、評価結果にもとづいて重点運用管理を行います。

重点運用管理項目を定期的に見直すことにより、リスク及び環境負荷の軽減並びに汚染・事故の防止を行うとともに、統合マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

活動、商品・サービスに関わる法規制並びに生協ひろしまが受入を決めた約束事項を順守すると同時に、内部統制システムの構築をサポートします。

1. 環境の取り組み

- 商品・サービスを通じて持続可能な生活提案を行っていきます。
- 業務効率の向上と省エネ推進により事業活動によるCO2排出を抑制します。
- 事業活動による廃棄物の発生抑制と資源の有効利用を促進します。
- 組合員参加のリサイクルなど、地域での環境保全活動を強めていきます。

2. 品質及び食品安全の取り組み

- CSネットと連携して商品検査を徹底するなど、食品の安全確保の取り組みを強めていきます。
- 商品知識やカスタマーサービスなど職員の業務品質を高めます。
- クレームの発生原因を追究し、クレーム削減に取り組みます。
- 組合員の声に応えて、業務内容及び商品・サービスの見直しを進めます。

3. 情報セキュリティの取り組み

- 個人情報、利用目的を明らかにして、適正に収集し、適切に利用します。
- 個人情報の紛失、改ざん、漏えいを防止するための安全対策を徹底します。
- 業務に関する情報資産の管理を強めていきます。

4. 労働安全衛生の取り組み

- 健康診断やメンタルヘルスを含む健康相談の実施など、職員の健康増進を進めます。
- 交通事故を含む労働災害の発生原因を追求し、労災事故削減に取り組みます。
- 労働時間及び休日取得の管理を強めます。
- 業務上の事故緊急事態を想定した対応訓練を行います。

以上の活動を進めるために、職員の教育訓練とコミュニケーションを強め、職員一丸となった取り組みを進めます。また、この統合マネジメント方針は、「社会・環境報告書」にて公表します。

2010年4月10日
生活協同組合ひろしま
専務理事 横山 弘成

2009年度のIMS目標の達成状況

2009年度は、27項目のIMS目標を設定し、P(計画)⇒D(実行)⇒C(評価・分析)⇒A(改善)のマネジメントサイクルで業務を行いました。

結果17項目の目標が達成できました。以下の表に27項目の目標とその達成状況を報告します。

2010年度は、中期計画に沿って、その部門で最も鍵を握る課題をIMS目標とし、さらに業務改善を進めていきます。

部 門	実施計画	目標	単位	累計	判定
経営企画室	省エネによるCO ₂ 原単位削減推進	24.67t-CO ₂ /億円以下	t-CO ₂ /億円	25.48	×
無店舗事業部	トラブル5種(過不足・誤配)(受注トラブル)(配送トラブル)(対応トラブル)(請求トラブル)の発生件数削減	年計18,020件/年以下	件	14,472	○
	供給高当たりの総労働時間短縮	年計3,805h/億円以下	h/億円	4,023	×
店舗事業部	店舗の廃棄ロス率削減	ロス率1.20%以下	%	1.68	×
	店舗の来店客数向上	全店合計5,056千人以上	千人/全店	4,801	×
共済企画G	COOP共済「たすけあい」「あいあい」「あいぶらす」「火災共済」の成約件数を拡大	のべ件数191,379件以上	件	189,690	×
福祉運営部	訪問介護の不履行の発生を減らす	120件以下	のべ件数	71	○
	訪問介護の利用者拡大	8,988人/年以上	のべ人数	8,439	×
	居宅支援事業の利用者拡大	4,984人/年以上	のべ人数	5,106	○
	デイサービスの利用者拡大	2,410人/年以上	のべ人数	1,969	×
Cサービス	サービス事業(文化・提携)の利用人数を拡大	425,000人/年以上	のべ人数	419,603	×
	Cサービス(保険)の新規成約件数を拡大	3,200件/年	件	3,455	○
Cハウジング	省エネリフォームを拡大	125件以上	件	217	○
	省エネリフォームによるCO ₂ 削減に貢献	年間のべ25,750kg-CO ₂ 以上	のべkg-CO ₂	44,702	○
広島商品C	ドライグロサリーの欠品率削減	ミス率0.0060%以下	%	0.0058	○
	冷蔵品の欠品率削減	ミス率0.0050%以下	%	0.0041	○
	冷凍品の欠品率削減	ミス率0.0050%以下	%	0.0045	○
ハートコープ	ハートコープの出荷品の不良発生率削減	0.020%以下	%	0.024	×
商 品 G	店舗の地場近郊野菜・県内産品の供給高を高める	622,791千円/年	千円/年	627,757	○
	「通い箱」の利用拡大によりダンボール削減	10,000箱/年	箱/年	4,660	×
組合員SC	「問合せセンター」の受電情報を業務改善に役立てる	24件/年	件	26	○
総 務 G	事業所ゴミの再資源化率向上	リサイクル率78.3%以上	%	79.6	○
人 事 G	労働災害の発生件数を減らす	55件	件	51	○
機関運営・広報G	こーぶばれっと「お便り」返信を有効活用	36件	件	36	○
組合員活動G	組合員の「食育」「地産地消・生産者交流」「環境保全・エコライフ」参加の場を増やす	年計19,400人以上	人	42,253	○
	買い物袋(レジ袋)持参率向上	持参率65.5%以上	%	73.9	○
	組合員リサイクルによるCO ₂ 間接的削減拡大	リサイクル率5,210t-CO ₂ 以上	t-CO ₂	5,259	○

※IMS(Integrated Management System):統合マネジメントシステム

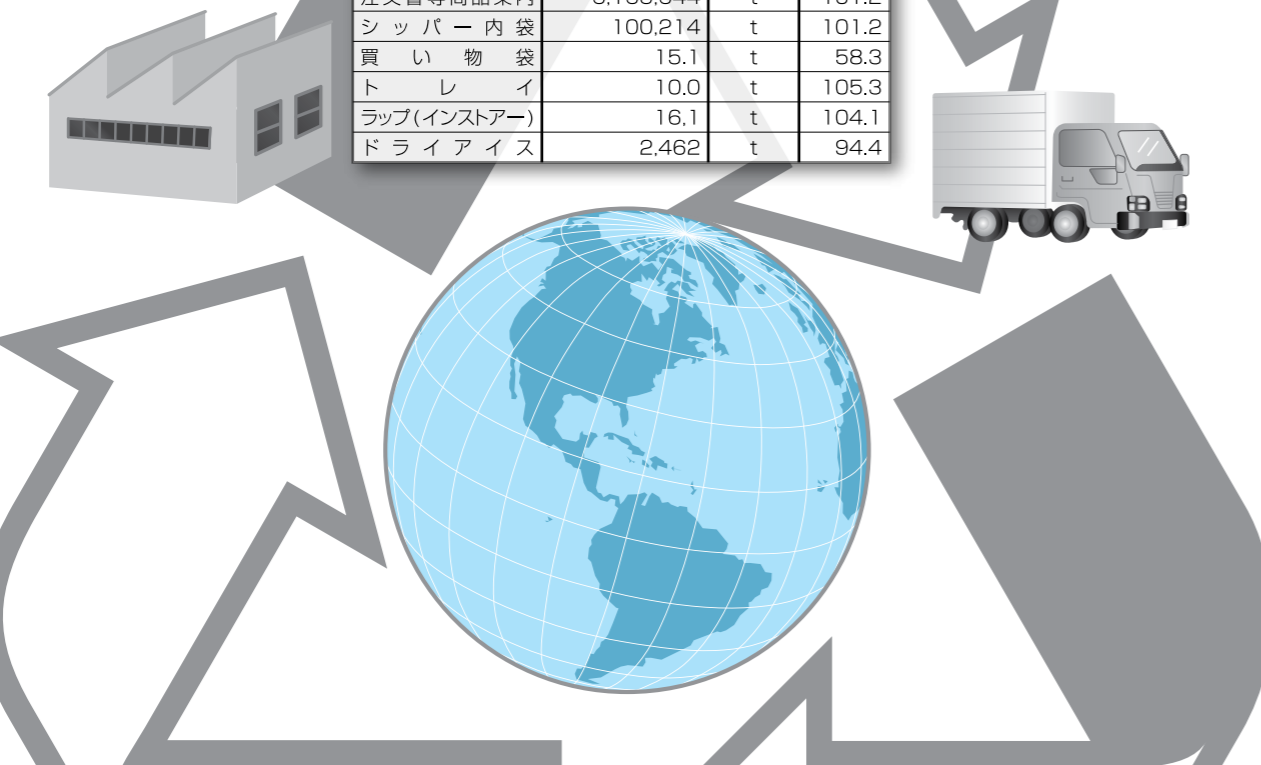
事業活動に伴うエネルギー使用

事業を行うことにより、使用したエネルギーの量とそれによって排出されるCO₂や廃棄物の発生と事業や組合員さんよりリサイクルされる量を以下の表に表しています。2009年度のCO₂発生量は前年度比99.1%となり環境に配慮した設備（太陽光発電）等の設置や職員への省エネ教育の効果が出ています。

以下の数値は、無店舗事業（17支所）、店舗事業（10店舗）、福祉事業（13事業所）、広島商品センター、大野事務所（CSネットを含む）、組合員SCの合計量となっています。

事業活動によるエネルギー・資源の投入

項目	使用量	単位	前年比
電気	22,315,393	kWh	100.3
都市ガス	15,934	m ³	70.8
LPガス	33,929	m ³	92.9
水道	85,416	m ³	104.2
灯油	25,806	ℓ	74.6
車両(軽油)	743,669	ℓ	96.3
車両(LPガス)	116,854	ℓ	84.3
車両(ガソリン)	198,824	ℓ	161.3
注文書等商品案内	6,165,644	t	101.2
シッパー内袋	100,214	t	101.2
買い物袋	15.1	t	58.3
トレイ	10.0	t	105.3
ラップ(インスタアー)	16.1	t	104.1
ドライアイス	2,462	t	94.4



事業活動による排出物のリサイクル量

項目	リサイクル量	単位	前年比
ダンボール	1,363	t	99.4
発泡スチロール	22.2	t	99.1
シッパー内袋	30.3	t	134.6
注文用紙+事務系・機密紙類	112.7	t	91.6
野菜くず	153.2	t	131.5
廃食油	13.8	t	130.5
魚あら	102.1	t	87.4
ビン・缶	8.2	t	78.3

事業活動による排出物の発生量

項目	発生量	単位	前年比
CO ₂	11,024	t-CO ₂	99.1
プラスチック類	67.9	t	82.1
可燃ごみ	173.2	t	80.1
生ごみ	182.8	t	107.3

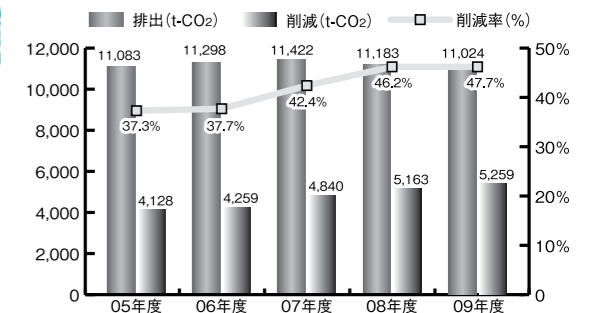
リサイクル

組合員から商品配送時と店舗店頭で飲用パック等を回収しリサイクルをしています。以下の表には回収品、回収形態、回収量、再生品を記載しています。回収実績量は、チラシ類の回収量増加に伴い、前年度より1.9%増加しています。引き続き、組合員さんへのリサイクル回収の呼びかけを強めていきます。

項目	回収形態	回収実績量(t)					再生品
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	
飲用パック	支所・店舗	160.6	136.5	130.9	123.5	121.8	コップ・ロール(トイレットペーパー)
たまごパック	支所・店舗	44.3	45.9	44.0	40.8	48.9	再生たまごパック
発泡トレイ	支所・店舗	25.5	24.3	23.7	23.0	22.7	再生トレイ
透明トレイ	店舗	-	-	-	0.5	3.5	再生トレイ
シッパー内袋	支所	59.4	54.1	57.2	54.9	52.2	再生フィルム、文房具
チラシ類	支所	3035	3216	3735	4039	4111	再生チラシ
ペットボトル	店舗	16.8	18.1	19.1	21.3	22.6	プラスチック原料
合計		3,341.5	3,494.9	4,009.8	4303.0	4382.7	

組合員参加のリサイクルによる間接削減量の推移

組合員から飲用パック等を回収しリサイクルすることにより、CO₂排出量を間接的に削減することにも繋がっています。今年度、生協ひろしまが事業を行うことで排出した11,024t-CO₂のCO₂に対して47.7%の削減に相当する量のCO₂を間接的に削減できており、削減率は年々高まっています。



容器包装リサイクル

商品配送のため冷蔵・冷凍・農産物を入れるビニール袋、店舗でのレジ袋、ギフト包装紙等となっており、2009年度179,418kgの排出量となり前年比5.2%の排出量増加となっています。

食品リサイクル

店舗の水産部門から排出される魚の残渣(全店舗対象)、農産部門から排出される野菜くず等(広島市内6店舗とC東広島対象)は、再生利用業者により再生品にリサイクルされています。また各店舗で廃棄ロス率(廃棄ロス率/供給金額)の目標を立て、年間を通じて商品発注の精度の向上等に取り組んでおり、2009年度の食品リサイクル率は58.2%となっています。

環境会計

2009年度 環境会計

環境会計は、環境保全に必要なコストと再資源化品の売却益等の経済効果を出し、費用対効果を見るものです。

環境保全コスト

店舗から排出される廃食油をリサイクル業者へコストを支払ってリサイクルしていましたが、廃食油を配送トラックの燃料に使用することにより、廃食油のリサイクルコストがかからなくなっています。また2009年10月より1店舗を除く店舗での、レジ袋の無料配布中止による買い物袋持参者へのポイント還元により約600万円以上のコスト削減になっています。

単位：千円

主な取り組み内容	07年度	08年度	09年度	前年比
浄化槽の点検、グリストラップ清掃	3,752	4,043	3,337	82.6%
ダンボール圧縮機、発泡減容機リース料等	1,553	3,349	2,672	79.8%
飲用パック等の自主回収	5,592	2,449	1,308	53.4%
事務系紙類、機密書類等のリサイクル	2,705	3,065	2,743	89.5%
生ごみ、廃食油、魚残渣のリサイクル	8,208	8,038	6,611	82.3%
一般及び産業廃棄物の処理・処分	39,185	31,961	31,956	100%
買い物袋持参者へのポイント還元	12,827	13,100	6,814	52.1%
再商品化委託料	12,827	11,708	8,610	73.6%
ISO14001 審査、内部監査等	11,831	13,427	11,488	85.6%
環境保全活動	4,329	4,129	3,626	87.9%
合計	102,809	95,269	79,165	83.1%

経済効果

2009年度は、2008年度に比べ約3千万円のリサイクル収益効果が減少しています。これは、2008年11月以降に急激にリサイクル売却単価の下落が影響しています。コスト同様にレジ袋の無料配布中止によりレジ袋使用削減分の効果は約100万円となっています。



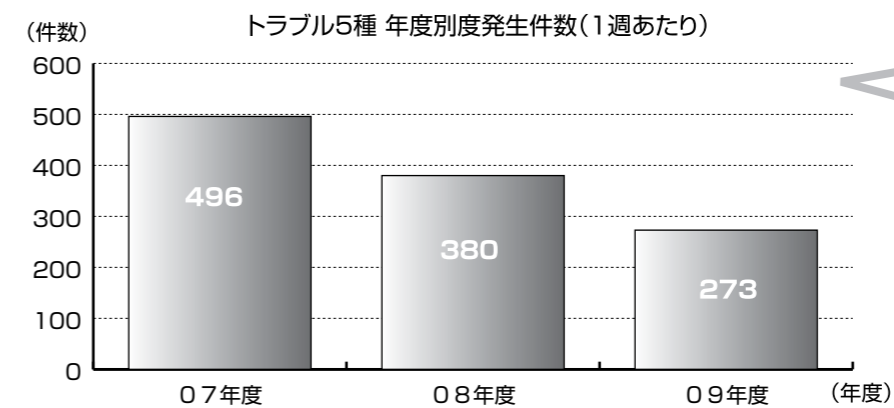
単位：千円

効果内容	07年度	08年度	09年度	前年比
ダンボール、ペットボトル、発泡スチロール	16,132	29,337	16,122	55.0%
商品カタログ、飲用パック	15,580	28,932	9,443	32.7%
レジ袋使用削減分	6,483	7,717	8,884	115.2%
再商品化委託料削減分	7,951	7,976	8,023	100.6%
合計	46,146	7,3962	42,472	57.5%

組合員の声を業務改善に

配送現場での取り組み

ご注文いただいた商品を確実に組合員のお手元にお届けし、気持ちよくご利用いただけるよう、問合せセンターに寄せられる苦情等の件数を組合員満足のひとつのバロメーターとしてその削減に取り組んでいます。2009年度は2008年度に比べ5,280件のトラブルを削減しています。以下の表には年度ごとの1週間当たりのトラブル件数を表しています。

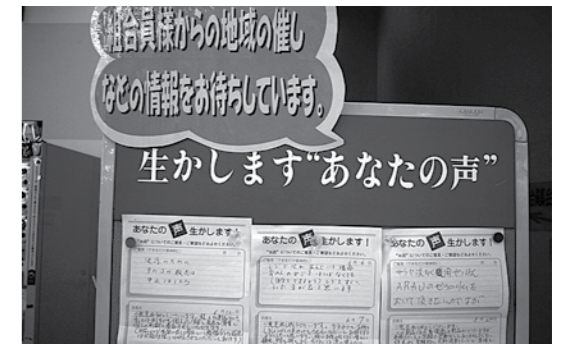


トラブル5種の内容

- 商品の過不足・誤配トラブル
- 受注トラブル
- 請求トラブル
- 配送トラブル
- 対応トラブル

店舗での取り組み

店舗では、組合員からいただく要望や質問等を記入してもらう「あなたの声をいかします!」は、店長が回答し店内に掲示したり、直接組合員に返したりしています。また、その声は店舗運営や商品の導入に活かしています。



組合員の声改善委員会

組合員からの問合せを一括してお受けする「問合せセンター」があります。問合せセンターには、週に約4,000件の問合せがありますが、貴重な組合員の声を分析することで、業務の改善につなげています。2009年度は、その声を基に26件の業務改善を行いました。



事故削減の取り組み

IMS ガイドブック、配送品質マニュアル、店舗業務手順書等を使用し、個人情報取扱事故、労働災害事故、車両事故等が起きないように手順書教育を行っています。

労働安全衛生

発生した事故事例を各事業所が共有できるようにし、同様の事故が起きないように教育をおこなっており、労働安全衛生法で労働安全衛生委員会の実施が義務づけられていない50人以下の事業所も、自主基準を設けて委員会を実施し、危険箇所を出してそれを改善していくこと等を行い、より働きやすい環境の整備を行っています。

労働災害事故の多い事故は、商品配送中の「荷降ろし中にトラック内で打撲・切傷」や店舗での「鮮魚調理中に支えていた手を切傷」となっています。



車両事故

各支所に安全運転の教育・訓練を行う「主任トレーナー」を配置し、同乗指導や事故事例の共有等により安全運転教育を行っています。

また、2009年度は配送車両の「ぴかぴか運動」として、配送担当者は自分が使用する配送車両を新車同様にきれいにすることで、傷をつけたくないという心理が働き、その結果、2008年度に比べ約18%の事故違反を減らしました。



個人情報保護

個人情報基本方針を定め、個人情報管理台帳を整備し、それに基づいて書類の保管期間や管理者を特定し、個人情報の漏洩防止を組織的に行っており、情報セキュリティのぜい弱性に対しては定期的に確実に監視を行っています。個人情報の取扱事故は年々減少しており、2009年度は9件の事故となっています。事故内容は、「FAXの誤送信」や「介護中の書類の紛失」等になっています。

公益通報者保護

公益通報者保護法にもとづき、通報者が不利益を被らないようにするため、業務ラインとは別にヘルプラインを設置しています。ヘルプラインは、生協ひろしま内部以外に、外部の受付先も設置しています。

IMSの有効確認

IMS内部監査

IMS内部監査

実施日：2009年9月2日～4日

監査範囲：IMS内部監査の範囲は、

目的・目標を持つすべての部門及び管理責任者

監査員：生協ひろしま内部36名+他生協監査員12名

▼監査所見の評定件数の推移

年度	重大	軽微	観察	プラス	総数
2002年度	0	12	79	0	91
2003年度	0	7	58	0	65
2004年度	1	6	60	6	73
2005年度	0	38	37	2	77
2006年度	1	9	36	17	63
2007年度	0	13	41	21	75
2008年度	0	7	41	30	78
2009年度	1	3	38	41	83

監査結論

統合マネジメントシステム (IMS) は、規格への適合性は満たしてきていますが、生協ひろしまが目指している、あらゆる場面でPDCAを回しながら、業務改善に役立つマネジメントシステムを確立し、運用することによって、組合員の満足を高めていく課題に対しては、IMSと業務システムがまだ一体化されていないため、PDCAが回りきれていない部分が見受けられます。業務の工程管理を主とする品質マネジメントシステムなども活用しながら、組合員満足を高めていくマネジメントシステムを構築することが望まれます。

改善提案

- 年度の事業計画の策定と連動した目標・実施計画の策定
- 不適合の積極的な活用
- 内部監査の掘り下げと効率の追求

ISO14001サーベイランス

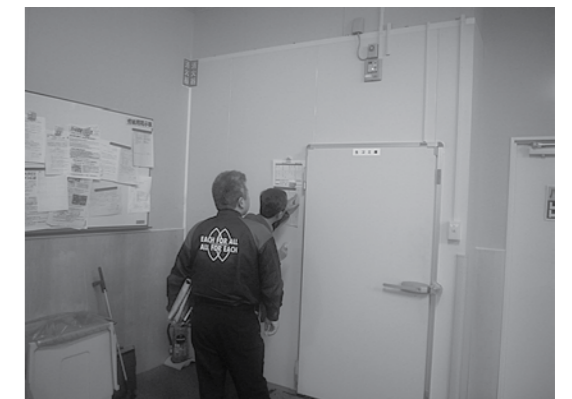
実施日：2010年2月8日～10日

登録範囲：(支所、SM店舗、広島商品センター、大野事務所、福祉事務所、コープハウジング(株)、コープサービス(株))における組合員へのすべての事業活動、商品、サービス

審査員：日本環境認証機構(株) 牧川 安之主任審査員 鳥崎 公寛幹事審査員

審査結果：向上

- 環境側面については、評価の基準として、従来より量のウエイトを高め、質のウエイトを低めにして実感に合うよう改善したこと。
- 力量教育については、各部門に求められる力量を明確にした上で全組織一斉に適用し、それぞれの確認表を完成させたこと。
- コミュニケーションについては「組合員の声に応える運用規程」を新規に制定し各部門ごとのコミュニケーションを明確化したことなどについて評価をいただきました。





生協ひろしま

2010年度 社会・環境報告書

発行：2010年6月
発行者：生活協同組合ひろしま
〒739-0495 広島県廿日市市大野原一丁目2-10
問い合わせ先：経営企画室
TEL 0829-50-0543 FAX 0829-50-0362
URL <http://www.hiroshima.coop>
E-mail hcoop@mail.hiroshima.coop

